



議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係 員

行政視察報告書

令和 6 年 11 月 17 日

笠 岡 市 議 会 議 長 殿

(出張者) 議員 桑田 昌哲 (印) 議員 (印)
議員 (印) 議員 (印)
議員 (印) 議員 (印)

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

行程

11 月 12 日 12 時 30 分 ～ 16 時 00 分 北九州 私立 小中一貫校『志明館』
11 月 13 日 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分 北九州市立 『こども文化会館』

住 所	福岡県北九州市小倉北区中井口 4 番 1 号
電 話	093-383-0514
視察案件	小中一貫校の状況となぜ小中一貫校を開校したのか
期 日	令和 6 年 11 月 12 日 (火) 12 時 30 分から 16 時 00 分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	私立 小中一貫校『志明館』
	【視察目的】
	志明館 校長 八尋 太郎
	視察内容 小中一貫校の状況となぜ小中一貫校を開校したのか
	少子化が進む中、なぜ小中一貫を 10 年もかけて開校しようとしたのか。
	高校の理事長をした事で、学生が授業や学校での活動に対して主張しない。リーダーシップを取る子、とれる子が少ないことを嘆いた。
	八尋校長の理念・学園指針から『心が志を 志が人成り』と定め「人生に深く関わる教育」を

	創設していく事を改めて決意し、小中一貫校を創設された。
	開校の意義
	次代を託すべき子どもの育成は、日本にとって最も重要なミッションであると感じ
	歴史伝統を踏まえた健全な日本人育成と「自ら気づき、主体的に学ぶを深める、志高くグローバルに活躍する」人財の輩出は急務。日本の未来を担う子供たちの輩出を考える。
	授業時間数の配分も考える。
	子どもの能力の種を、3つの教育でスパイラル的に伸ばし、志ある人財を育む。
	志明館ならではの特色ある挑戦を実施する。
	『ニューロン回路の発達度(脳の成長)』 脳の成長曲線と言うものを示しこだわった教育を
	小学1年生から授業が6時間で教育をしている。(放課後児童クラブ的な)
	福岡県の不登校
	小学生 R5年約5400人 R6年約6000人超え
	中学生 R5年約9600人 R6年約10000人超え
	全国小中学生の不登校者は30万人弱 5年前の2倍になっている
	不登校者にはふきこぼれと言う事例が増加している(人数が把握されていない)
	このような生徒の不登校を減少させたい。
	公立では普通の生徒(平均的なという表現をされている。)を作っている。
	全体感での生徒を育成することをしているから仕方ないが、もっと今後の事を考えた人財を
	人数が減少する世の中での今後の日本を構築する人を輩出したい。
	今年開校した学校であり、1、2年生しかいないが、毎年生徒数を増やして行く。
	校舎や様々な所がこれから改築などしなければならない。
	小学3年生から教科担任制とし教育を深めていく。
	まとめ
	数十年前からゆとり教育が国の教育方針ではある。
	私立だから可能な事と言う感覚はあるが、公立教育でももう少し同様な教育ができるのでは
	各市での小中学生の能力・学力をどの様にしてあげるのかは検討の余地がある。
	教育料や市・県単での管理費など、メリットがある点も考慮した方がということと言われた
	財政なり利用金額なり勉強をする分野が広がった。
	家庭の環境での差はある、家庭負担を少しでも減らせれる公立校は必要ではあると考える
	教育は子どもの為、子どもの成長を鑑み本来どの様になるべきなのか。
	公立校のメリットもある、どちらかを取るではなく共存できる内容とし、より子どもが
	しっかりとした人生設計ができる事を考えたい。
	小中一貫(施設一体・分離型)などあるが、少子化だけでなく子どもの勉強・将来を考え
	実施すればよいが、出来ない事情もある。今後の課題ではある。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

住 所	北九州市小倉北区下到津 4 丁目 3-2
電 話	093-592-4152
視察案件	北九州市立こども文化会館の運営について
期 日	令和 6 年 11 月 13 日（水） 9 時 30 分から 11 時 20 分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	北九州市立 こども文化会館
	【視察目的】 北九州市立 こども文化会館館長 碓 泰美氏館長 講座内容 北九州市立こども文化会館の運営について こども文化会館の設置目的および特色 児童文化の普及や創作活動を促進すること。幼少年期の子どもの創造力を向上させる。 直営での施設運営 事業費 140 万 施設運営費 1100 万 再任用職員(館長)1 名 会計任用職員 5 名(教職・保育での経験者) 市民センターと併用しているが内容・業務は別で対応 1、子どもの成長を感じれることを目的に 2、市全体での施設運営 児童劇場・工作室・ボランティアルーム・プレイルーム・図書室などあり 北九州と言う大きな市だからか、サークルが 9 団体登録し、子どもも自分に合わせ団体へ入り様々な活動を通して成長をしているそうである。 音響・シアターなどを合わせた施設となっており、利用頻度は多い。ただ、施設自体が古く R8 年から公共マネジメント利用計画に入り今後どの様になるかは不明。 近隣の特別支援学校との連携は、大きくはなく、来られる方が来る程度。 まとめ 北九州市には、学区ごとに児童館が設置されているが、ここの、こども文化会館は施設創設者 阿南哲朗さんの意向を強く残せている場所。 市全体の施設であり、色濃く今ある地域だけと繋がりをもつではない施設。 子どもとの関わり合い、子どもの体験を通じ、子どもの育成と成長を願う施設。 笠岡市の公民館と協まちが合わさった施設である。 笠岡市も団体などの統合も考えるべきなのではと感じる。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺